

第4次浜松市教育総合計画 評価・検証の方向性

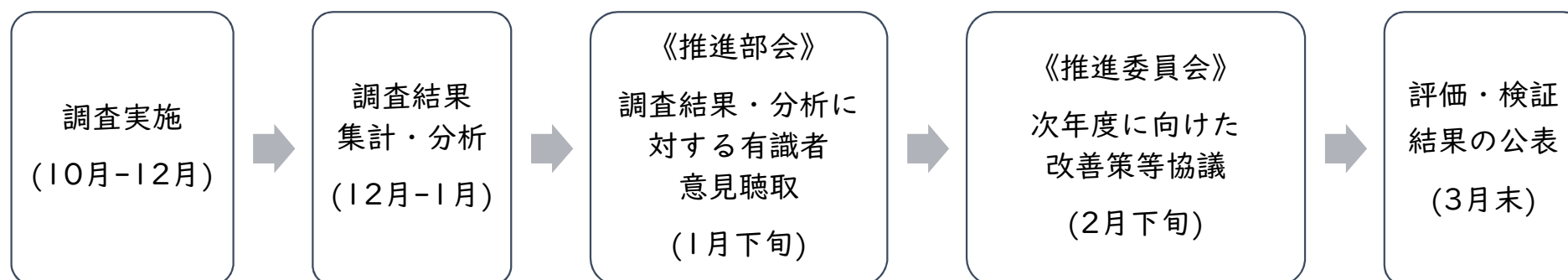
資料3

I 第3次計画の評価・検証について

(1) 目的

施策に基づく関係課や学校の実態、取組を実施したことによる教職員、児童生徒、保護者、地域住民の実態を調査し、取組状況と成果指標の達成状況を踏まえて評価・検証を行い、次年度以降の施策推進につなげる。

(2) 評価・検証のスキーム



※学校別速報値報告 (12月末)

(3) 第3次計画 評価・検証の成果・今後の検討事項 (1.29_評価・検証推進部会 有識者意見より)

◇成果

- 評価・検証を行う理由は、教育活動を根拠に基づいて充実させていくところであり、また市民に対する説明責任といったところでも重要な意義があると思う。
- 教育政策の進捗だけでなく、子供や保護者、地域住民など多方面のデータを取っているところ、また、キャリア教育や教育の情報化、コミュニティ・スクールなど重点施策についてさらに詳細な分析をし、このような部会を設けながら協議していることが、本市の大きな特徴である。
- 浜松は広域であるため、全ての地域で同じ教育をすることは難しい。どのように資源や財源を投資していくか、公正な教育を担保するのか、そういったことに活用できるようなレポートになっていると思う。
- 各学校で学校評価を実施しているが、プラスして教育委員会の調査で他校と比較した自校の実態が分かるため大変参考になる。

◇今後の検討事項

- 大規模な調査を実施していることは、根拠の一つとしてとても重要である。調査項目については、学校教育の改善や教育予算の獲得のことも考えながら設定していく必要がある。また、そういった点で評価・検証のスケジュールも見直していく必要がある。
- 学校評価でも子供や保護者、地域にアンケートをとっている。教育委員会の調査と内容が重複する部分もあるため、負担も考えて調査項目の精選は必要である。
- 教育委員会の調査で明らかにすべきことと、各学校の学校評価やコミュニティ・スクールでやるべきところを協議しながら、評価・検証のあり方というものを検討していく段階に入っている。

2 第4次計画の評価・検証の方向性

- 第3次計画と同様に、計画に位置付けた取組の進捗や成果指標の達成状況、子供・保護者、教職員の実態を踏まえて毎年度施策の評価・検証を実施し、「教育委員会 点検・評価報告書」にて公表するとともに、次年度の施策推進につなげる。
- 5年目に前期プラン全体の評価を実施し、社会情勢の変化や教育施策の動向、毎年度の評価・検証等を踏まえ、後期プランの施策・取組の見直しを図る。
- 第4次計画の評価・検証にあたり、施策・取組に設定する成果指標の検討、評価・検証に係る調査の実施時期や対象の見直し、各種調査を踏まえた調査項目の精選を行う。また、予算要求等の時期を踏まえ、全体スケジュールを見直す。

◆第4次浜松市教育総合計画の構成

